

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成30年10月4日(2018.10.4)

【公開番号】特開2017-53704(P2017-53704A)

【公開日】平成29年3月16日(2017.3.16)

【年通号数】公開・登録公報2017-011

【出願番号】特願2015-177415(P2015-177415)

【国際特許分類】

G 0 1 C 19/5747 (2012.01)

H 0 1 L 41/113 (2006.01)

H 0 1 L 29/84 (2006.01)

H 0 1 L 41/04 (2006.01)

【F I】

G 0 1 C 19/56 2 4 7

H 0 1 L 41/113

H 0 1 L 29/84 Z

H 0 1 L 41/04

【手続補正書】

【提出日】平成30年8月22日(2018.8.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 3】

一方、デカップリング回路を有さない物理量検出システムの構成例を図2に示す。図2に示す物理量検出システムは、図1に示す物理量検出システム100と、デカップリング回路を有さない点以外は同一の構成であり、第1の物理量センサー110と第2の物理量センサー120にも同一種類の物理量センサーを用いるものとする。そのため、第1の物理量センサー110の第1の駆動周波数 f_{d1} と、第2の物理量センサー120の第2の駆動周波数 f_{d2} にも、製造ばらつきによる僅かな差があるものとする。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 4】

そこで、本実施形態の物理量検出システム100は、 $f_{cL1} < f_{d1} < 3 \times f_{d1} < f_{cH1}$ になるような第1のバンドエリミネート周波数特性を有する第1のデカップリング回路130と、 $f_{cL2} < f_{d2} < 3 \times f_{d2} < f_{cH2}$ となるような第2のバンドエリミネート周波数特性を有する第2のデカップリング回路140とを用いる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 5】

そのため、図10のg3に示すように、このような同期検波後の検出信号に対して、フ

ィルター部 6 3 によるフィルター処理（ローパスフィルター処理）を行って、D C オフセットの不要信号 N S 1 と、機械振動漏れの不要信号 N S 2 を除去することができる。なお、図 1 0 の g 3 に示すグラフでは、L P F がローパスフィルターの減衰特性を示しており、この減衰特性は、グラフの右側に示す縦軸に対応している。グラフの右側に示す縦軸は、減衰率 A t t の逆数（ $1 / A t t$ ）を表す。